

名古屋大学名誉教授

菊山 功嗣

昭和 39 年卒業(第 23 回)



### 高齢社会の一員として

定年退職してから 10 年になるのに、未だに大学時代の夢を見る。先日も助教授の時、急に教務課から呼び出され、教養部時代の文科系の単位が一つ足りないと注意された夢であった。今も大学に対する畏怖感が残っているのだろうか。

若い時から野外スポーツが大好きで、野球、テニス、スキーには仕事以上に熱中した。退職後もハイキングなどを楽しんでいる。昨年は 6 月に御嶽山を日帰り登山をした。1 ヶ月後に噴火しテレビで山頂の様子をみて、もう少しのところでこれに巻き込まれたのだとホットしている。

定年直前に岐阜県中津川市の里山に移住し、その後移った私学を含め 8 年間 JR で通勤した。おかげで名大時代に読めなかった多くの本を列車内で読むことができた。

中津川に移って間もなく、地元の人との共同でグループホームを私の敷地の一部を寄付して建設することになった。グループホームとは認知症高齢者の施設である。認知症の老人を抱える家族は自宅で面倒をみるが大変で、このような施設への入所希望が殺到しており、老人施設である特殊養護老人ホームは入所待機者は全国で 50 万人以上といわれている。今後益々高齢化が進むのでこの傾向はこの先 20 年以上解消しないだろうといわれ、まさにこの種の福祉事業は時代の先端産業である。といっても利益を生む産業ではないので、企業も働く者も財政的には優遇されていない。

施設の管理責任者ではあるが、私もすでに高齢者の仲間入りをしている。我国の福祉予算増加が避けられない中、社会で活躍する東山会会員諸君の一層の活躍を期待し、国家財政にも貢献されることを願っている。